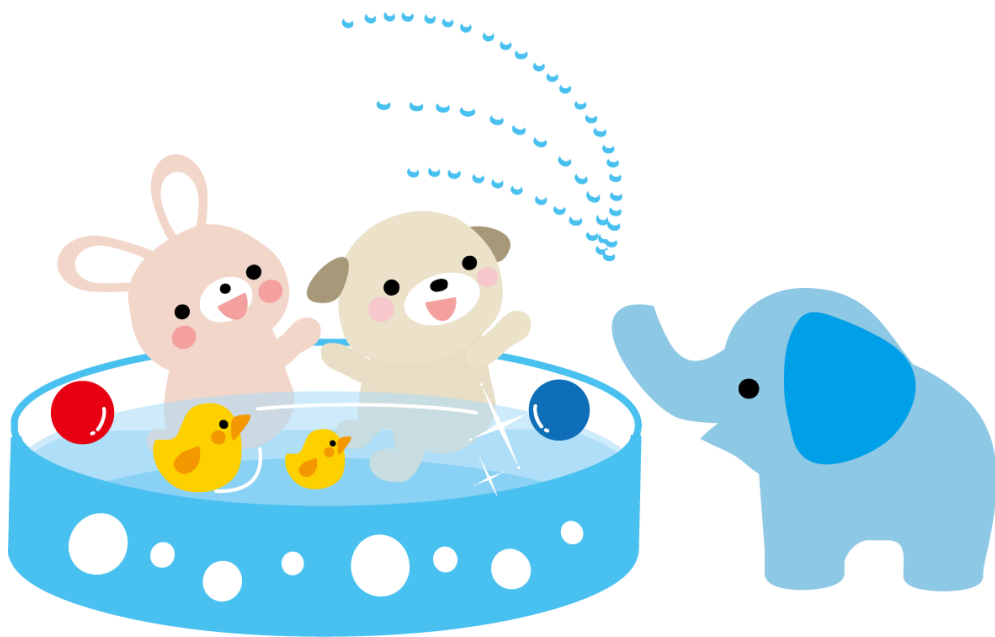


市民と市長の対話集会

第69回

タウンミーティング記録集



平成25年7月23日(火曜日)

会 場 地域福祉センター

時 間 午後2時～4時

東村山市

○開催内容

平成25年7月23日（火）午後2時、地域福祉センターにおきまして「タウンミーティング」を開催しました。今回は夏休み特別企画として中高生を対象に行い、中高生 24名、保護者・傍聴者 14名の方にご参加いただき、ご意見をうかがいました。

●会場アンケート結果（住所地・年齢・性別について）

アンケート用紙は会場入り口で配付し、うち36枚を回収しました。

・アンケート回答者の住所地

東村山市内	22人
市外	13人
未記入	1人
合計	36人

・性別

男性	13人
女性	23人
合計	36人

・年齢

10代	24人
20代	0人
30代	0人
40代	2人
50代	3人
60代	0人
70代以上	0人
未記入	7人
合計	36人

○開催情報

●対象 市民の方（在勤・在学の方含む）

●申込み 申込みは不要です。当日、直接会場にお越しください。

（手話通訳・要約筆記が必要な方は、開催日の1週間前までに

FAXまたは電話またはEメールにてご連絡ください）

連絡先：東村山市役所 市民協働課 電話/(393)5111 fax/(393)6846

Eメール/kyodo@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp

開催日	会場	時間
平成25年10月12日（土）	青葉地域センター	午後2時～4時
平成25年11月16日（土）	久米川ふれあいセンター	午前10時～正午

タウンミーティング記録（概要）

会場での発言内容は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

【市長あいさつ】

皆さん、こんにちは。東村山市長の渡部尚です。今日は夏休みになったとはいえ、何かとお忙しいところ、通称「タウンミーティング」と言っていますが、皆さんと私の対話集会にこんなに多くの市内の高校生、中学生にご参加いただきまして、まずは御礼申し上げたいと思います。皆さん、本当にありがとうございます。

また、常日頃、学校や地域の行事に中学生や高校生の皆さん、それぞれの立場でご参加いただいて、まちをよくする、地域をよくする活動にもご参加いただいていることに改めて感謝申し上げたいと思います。

次代を担う中学生・高校生から直にお話を聞かせていただく場として、年1回、中高生のタウンミーティングを開かせていただいています。これまでは8月中の土曜日を開かせていただいていたのですが、8月になると皆さんもお父さんやお母さんと田舎に行ったり、旅行に行ったり、クラブ活動等で結構忙しいというお話を聞きまして、できれば夏休みに入ったばかりの頃にやってみたらどうかということで、今日はちょっと出づらい時間かもしれませんが、平日の午後で開催しました。しかし、こんなに多くの皆さんにご参加いただいて、大変ありがたく思っています。

ついこの間、参議院議員選挙がありました。皆さんはまだ選挙権も被選挙権という立候補する権利もありませんが、国の政治が大きく変わる局面ということについては、テレビや新聞の報道等を通じておわかりいただいているかなと思います。ただ、国政というのはなかなか難しいし、ちょっと遠くの世界というような感じがすると思います。しかし、市のこと、まちのことというのは、皆さん自身の普段の生活に関わるのがすごく大きいです。皆さんは市長や市議会議員の選挙権や被選挙権はまだありませんけれども、住んでいる市民として「こんなふうにしてもらったらいいな」とか「こんなふうにしたいな」ということが結構あるのではないかと思います。

中学生の皆さんの学校を建てて運営しているのは市役所、教育委員会ということになります。通学する道路もほとんどは市役所で造った道路です。そういう意味で、日々、学校に行って授業を受けるだけでも市が関わっていることがいっぱいあって、「こんなところをこんなふうに変更してもらってもっといいな」ということがいくつもあるのではないかなと思いますので、今日は日頃感じていることをぜひおっしゃっていただきたいと思います。なかなかすぐにできることばかりではありませんが、今回3回目ということで、以前「うちの学校の部活の道具がものすごく古くなってしまったので、何とか市で予算を組んで道具を買って欲しい」というお話をいただいたことがあって、実は各学校の運営費の予算とは別に、限られた予算ですがクラブ活動に充てる予算を別立てで組ませていただいて、いくつかの学校の古くなった備品を買い替えたりするようにしてきていますし、学校自体が古くなっている学校もあります。そういったところについて皆さんのご意見やお父さんお母さんのご意見、学校の先生方のご意見を聞きながら少しずつですが改善させていただいています。

また、今日は日体桜華の生徒さんに大勢ご参加いただいて、ありがたく思っています。日体桜華の

生徒さんの場合は、東村山に在住している人もいれば、市外から通学されている方もいらっしゃると思います。ただ日常、学校生活で大半の時間を費やすのは東村山市になるので、例えば皆さんが学校に行っている間に大きな災害等があった場合は、市も学校の皆さんと一緒に皆さんの命や安全を守らなければならない責務があります。そういう意味で市内に住んではいないけれども、通学して東村山市内で勉強している皆さんも、私からみれば東村山の子どもたち、あるいは東村山の大切な若者だと思っています。桜華の皆さんには市の行事にもいろいろご協力いただいていますので、いろいろ意見交換をしながらより良い高校生活、「東村山市にある高校に通って良かったな」と思っただけのように我々も努力していきたいと思っています。

実は今日、私は「ゆりーと」のポロシャツを着ていますが、既に皆さんご存知かと思いますが、今年、東京で54年ぶりに国民体育大会が開催されます。東村山市では10月4日から7日までスポーツセンターで少年女子（高校生女子）のバスケットボール競技大会を1回戦から決勝まで行う予定にしています。それに先立って9月21日にはデモンストレーション競技であるティーボール大会を日体桜華のグラウンドもお借りして大々的にやる予定にしております、市内の小中学生にも出場していただく予定になっています。今年行われる国体をいろいろな立場でぜひ盛り上げていただきたいのと、日本中のトップアスリートと言われるほぼ同世代の選手が東村山に来ますので、皆さんバスケットボールをやっているかわかりませんが、身近なところで素晴らしい競技が見られるので、ぜひこの機会にご覧になっていただいて、一緒に盛り上げていただきたいなと思います。

それから今、東村山の中学生がすごくがんばってくださっていて、今度、六中の演劇部の皆さんと七中の朗読部の皆さん、それと個人の方ですが七中の女の子が100mハードルで全国大会に出場することになりました。がんばって都大会で優秀な成績を収めて全国で活躍している東村山の中学生がいるということを私はすごく誇りに思っていますし、皆さんもいろんな活動を更にがんばって、全国大会に出るだけじゃ全部ではないんですけど、そういう人もいますのでそれを励みにしながらぜひがんばって欲しいと思います。

それと明日の午後1時から中央公民館のホールで法務省主催の「ハンセン病に関する親と子のシンポジウム」という大会をします。これは法務省と市と関係団体が共催で行う事業で、法務大臣もお見えいただけるということと、それから二中と六中のお子さんがパネリストとして出ていただく予定になっていて、出ていただく方も今日来てくれているので、大変楽しみなシンポジウムになるんじゃないかなと思います。ぜひ東村山の中学生・高校生には次の未来を担う若人として日頃から地域の活動にも参加いただきながら、これからもがんばって大きく成長して欲しい。今日はその一助になればいいなという想いでやらせていただきますので、よろしく願い申し上げますご挨拶とさせていただきます。

【会場でのご意見】

～みんなが楽しく学び、豊かな心を育むまち～ について

◆国体で私たち学生が協力できることは

(日体桜華高等学校 Kさん)

国体のデモンストレーション競技としてティーボールがありますが、その会場校の1つに本校が入っています。私たち高校生が国体に協力できることは具体的にどういうことでしょうか？

◎ 市長回答 ◎

競技大会の運営の一翼を担っていただくということで、市では今、大会を手伝っていただくボランティアを募集しています。補助的ないろいろな係員をやっていただくということで、東村山市在住・在勤・在学の高校生以上ということで残念ながら中学生の皆さんにはボランティアをしていただけないんですけれども、そういうかたちで今、市民ボランティアを募集しています。具体的にどういことをやってもらうかというのはボランティアがどの程度集まるかによって全体の割り振りをさせていただくことになるかと思っておりますので、今の段階で「あなたはこういうことをしてください」とは申し上げられないんですけれども、まずは応募していただければと思っています。

バスケットボール競技は高校生女子の大会ということなので、皆さんと同じ女子高生が出場するのですが、競技自体の運営についていうとバスケットボール協会のほうから選ばれた普段バスケットボールをやっている高校生の方々に運営を担っていただくようなかたちになっているので、それ以外の例えば誘導だとか案内だとか、いろんな仕事があろうかと思っております。特にティーボールの会場校になる生徒さんをお願いするとすると、恐らくそれぞれの学校で選手を案内してもらうような仕事が想定されるかなと思っております。ただ、直接的な競技運営等のボランティアだけでなく、それぞれの学校独自で機運を盛り上げるとか、あるいは選手が大勢お見えになるのでおもてなしというかたちでやっていただいてもいいのかなと思っています。いずれにしても東京で開催されるのは54年ぶりですし、9月7日に2020年のオリンピックの開催地が決定するんですが、もし東京が選ばれて、選ばれた直後に東京での国体ということになると、結構盛り上がるんじゃないかなと想定されるので、多くの方にご協力をいただきたいと思います。競技運営のボランティアだけでなく、いろいろなルートで学校のほうに「こういう協力をしてください」というお願いをさせていただくかもしれませんので、その時にはまたよろしくお願ひしたいなと思っています。

◎ 国体推進室より ◎

国民体育大会では「正式競技」「公開競技」と併せて「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」を実施しております。デモスポ行事とは、都道府県代表の選手が競い合う正式競技とは違って、国体開催地の都道府県にお住まいのみなさんが参加できるスポーツ行事です。正式競技につきましては、競技運営面では、まず、競技補助員として、東京都バスケットボール協会が中心で選抜されました都内の高校生がお手伝いすることとなっておりますので、直接当協会より要請されることとなっております。それ以外の大会運営面でのお手伝いといたしましては、まず、競技会補助員としてボランティ

アに応募していただくこととなります。登録後、事務局にて業務分担をさせていただき、お手伝いをお願いすることとなります。(会場内の案内誘導等) デモンストレーションとしてのスポーツ行事としてテーパーンルでのお手伝いの関係でございますが、当日の審判や競技運営につきましては、NPO 法人日本テーパーンル協会及び東京都連盟、東村山市テーパーンル連盟、市内小中学校教諭、少年軟式野球連盟、スポーツ推進委員、体カづくり推進委員、ソフトボール連盟、市役所野球部を含めた多くの関係団体の方々にお手伝いをいただく予定となっております。特にテーパーンルの会場校になります生徒さんをお願いしたいことにつきましては、直接的な競技運営等のボランティアではなく、当日の応援などで機運を盛り上げていただければと考えております。なお、桜華女学院中学校の生徒さん方には、参加チームとしてご協力をいただいているところではございます。高校生によるボランティアのご協力をいただけるということでもありますので、国体事務局までご一報いただき、ご相談させていただきたいと思ひます。

◆学校にテニスコートをつくって欲しい

(東村山第五中学校 Oさん)

五中では、校庭をテニス部・サッカー部・野球部の運動部みんな使っています。練習中、ボールなどが飛び交ってなかなか集中して練習に取り組むことができません。七中みたいにテニスコートを別につくることをお願いできませんか。

◎ 市長回答 ◎

ありがとうございます。Oさんは頭のかたちをみると野球部かな？

はい、野球部です。

(東村山第五中学校 Oさん)

◎ 市長回答 ◎

テニス部や他の部活の人と一緒にグラウンドを使っているので、思い切って球を打ったりできないということかな？

はい。

(東村山第五中学校 Oさん)

◎ 市長回答 ◎

わかりました。そうですね、学校の校庭全体の広さもあるので、仕切ってテニスコートをつくるということについては今、この場ではお約束はできませんけれども、五中の野球部の皆さんは昨年も出てくださっているいろいろな要望をいただいているので、少しでもお応えできるように努力したいと思ひます。また、学校の先生方とも協議をしながら、安全にそしてそれぞれの部活の皆さんが伸び伸び活動できるように工夫ができないか。当面はそういったことで対応させていただいて、将来的に専用のテニスコート等が分離してつくれるのかどうなのか、お時間を…と言ってもそうなるとOさん卒業しちゃうかもしれないかな。申し訳ないけど、ちょっと時間がかかるので、今の活用の中で工夫ができないか、学校の先生方とも協議させてください。

◎ 庶務課より ◎

テニスコート設置につきましては、校内での設置スペースの問題、また、設置に掛かる費用の問題

がございます。トイレを始めとして、学校施設の老朽化対策が喫緊の課題となっていることもあり、その対策に一定の区切りをつけることにより、校庭の整備等についても検討していく必要があると考えております。現状においては校内で利用方法を工夫して対応をお願いしたいと思います。

◆市長が中学生に求めるものは

(東村山第三中学校 Fさん)

市長は三中の出身と聞いたんですが、今の三中生に求めているものは何ですか？

◎ 市長回答 ◎

三中出身ということで今の三中生に求めていることということなのですが、今は市長という立場なので、特にどこの中学にどうというよりも「東村山の子どもたちにはこうあって欲しいな」というものががございます。これから東村山、それから広く言えば日本や世界を背負って立つのは皆さんたちですから、そういう気持ちを持ってぜひ前向きにこれから生きていって欲しいなというふうに思います。生きていく上ではいろんな困難なことがあるかもしれませんが。例えばまず中学生の皆さんでは目の前にあるのは高校受験であったり、あるいは今度のクラブでの大会であったり、いろんなことがあるわけですが、そういったことを一つ一つ乗り越えてぜひ自分なりの夢や目標を描きながらそれに向かって前に向かって歩いていって欲しいというふうに思っています。そのためには日頃の学習やクラブでの練習だとか、学校行事で友達と一緒に何かをつくりあげるとか、あるいはこういうところに出てくるということもそうなのですが、いろんなことを経験したり体験するということが皆さんのこれからの長い人生を生き抜いていく力になるというふうに思います。そういう意味では学校の行事や授業はもちろんですけども、それ以外のいろんな機会に地域のこうした行事にも積極的に参加して、自分を高め磨いていく姿勢をもっといただけると、皆さんが成長される時に非常に大きな力になるんじゃないかなと考えています。特に三中生ということではありませんけれども、東村山市の子どもたちにはぜひそういう前向きな姿勢を常に持ち続けて欲しいと思っています。

◆中学生が勉強しやすい環境づくりを

(東村山第三中学校 Yさん)

去年このタウンミーティングで「中学生が勉強できる場所を増やして欲しい」という要望や意見がありました。その後どうなったのでしょうか？

◎ 市長回答 ◎

夏休み中、図書館に行っても混んでいて使えなかったりするので、というお話だったと思います。話としてはまだ具体的には進んでいません。考え得る方法としては、学校校舎が耐震化され、これから外壁やトイレの改修が進んでいけば、普通教室についていえば夏もある程度快適に学習できる環境ができてきます。学校管理者である学校長はじめ学校の先生方とよく相談しなければならないんですけども、皆さんが自主的に学習する場として、通常授業で使っている普通教室をうまく活用していくことで学習の場を確保するという方法が1つ考えられると思います。ただ、日常的に学校を管理されている学校の先生方と具体的に話をつめたことがないので、その辺が可能なかどうかどうなのか少し考え

ていきたいなというふうに思っています。

図書館はこれ以上全体数を増やすという計画も予定も今のところないので、申し訳ないけど夏休み中は早い者勝ちで早めに行って場所を確保してもらったり、図書館の担当とはまだ話していませんが、図書館の学習室とか椅子やテーブルのあるところを時間で区切って入れ替え制にして、多くの人が利用できるように等、工夫ができないかどうか図書館に伝えておきます。

◎ 図書館より ◎

図書館の座席は、館内の資料を使った調べものや、本の内容確認、貸出しできない新刊雑誌や新聞の閲覧など、利用する目的や時間が様々です。また、館内のあちこちに座席が分散しているため、時間で区切っても途中退席や順番待ちへの対応等、利用する方にとってもわかりにくい運用にならざるを得ず、実施は難しいと考えています。

他市では、比較的スペースが多くある新しい施設において、読書室の座席予約を館内のパソコンから直接市民が行い、3時間ごとに総入れ替えにするという例もありますが、当市ではスペースも仕組みもない状況なので、当面は現状の中でご利用くださいますようお願いいたします。

◎ 指導室より ◎

今年度、学校図書館や学習に適した教室等、生徒が自学自習できる場所の開放について各学校に協力を求め、多くの学校で夏季学習教室（補習等も含め）を実施しております。ぜひご活用いただきたいと思います。

◆図書館の開館時間延長を

（東村山第七中学校 Iさん）

図書館の開館時間を延ばして欲しい。17時閉館だと部活動や塾などで行けない場合も多いし、勉強もあまりはかどらないと思うので、よろしくお願いします。

◎ 市長回答 ◎

ありがとうございます。Iさんはどこの図書館に行くのでしょうか？

廻田図書館です。

（東村山第七中学校 Iさん）

◎ 市長回答 ◎

今、東村山市内に図書館が全部で5館あるんですけど、毎日どこかの館は時間延長するようになっているんですね。中央図書館は火曜から金曜の週4日間は20時までやっていて、地区館では秋津が水曜と金曜の19時まで、廻田・富士見・萩山が木曜の19時までやっているの、近いのは廻田だと思いますがそれ以外の時に利用したいのであれば、ちょっと遠くなるけど中央図書館は20時までやっているの活用できると思います。全部の館を夜遅くまでとか、どこかの自治体では図書館を24時間開けているところもあるのですが、24時間開ける意味があるのかというのも私は疑問ですけども、図書館も少ない職員数のなか、地区館は週1回または2回、中央館は週4日間、時間延長していますのでぜひご利用いただきたいと思います。

◆特別教室にエアコンを

(東村山第三中学校 Aさん)

特別教室にエアコンを入れる予定を早めていただけませんか。暑くて集中できないのと、体調を崩して個人の遅れが出てしまうので、できるだけ早くしてもらえませんか？

◎ 市長回答 ◎

普通教室には一昨年、昨年で全ての小中学校にエアコンが設置されました。予定を早めて欲しいということなんでしょうけど、特別教室にエアコンを入れる予定は残念ながら今のところありません。というのは、皆さんにこういう話をするのは大変恐縮なんですけど、特別教室へのエアコンの設置については、東京都の補助金制度がないため、設置すると市でお金を全部工面しなければならないんですね。学校の場合、一般家庭のようなエアコンを買ってきてちょっと付けるといっていいかわからないので、普通教室へのエアコン設置工事で1教室あたり250万円ぐらいお金がかかるんです。東村山には小中学校合わせて22校あるので、全ての特別教室に設置するとなるとなかなかすぐというわけにはいきません。ただ、どうしても必要ということで音楽室等については既にエアコンが設置されているんですが、それ以外になるとなかなか設置できていない状況です。これも学校の先生方と相談ということになりますけど、通常の普通教室で行える授業については特別教室を使わずに対応できないのかどうか、そこは検討していただく余地があるのかなと思っています。今年のように大変暑い年ですと、教室の室温が35℃から40℃近くまで上がってしまって、熱中症になる恐れがあるということは承知しているんですけど、今申し上げたようになかなか予算の問題で進められない状況があるということで今日の時点ではご理解いただきたいなと思います。今日、中学生からそういう声があったということで、議会でも何人かの議員さんから「特別教室にも全て市の負担になってやるべきだ」というお考えの方もいらっしゃいます。ただ、そうなるとうちのお金を削って特別教室にエアコン設置する等、そういうことを考えなければいけないので、教育予算の中でどうやってそれを生み出すかということが問題になると思っています。普通教室にエアコンが設置されて、あと公立小中学校22校の耐震化は昨年で全て終了しましたが、今、皆さんが使ってらっしゃる校舎ができたのはちょうど私が三中に通っていた頃なので、外壁とかトイレが老朽化しています。確かに特別教室のエアコンも大事かもしれないけれども、私としては校舎の外壁とトイレ改修を進めていきたいなというふうに考えています。

◎ 庶務課より ◎

特別教室への空調設備設置についてですが、普通教室と同程度の部屋数となることから、かなりの予算が必要となり、国・都の補助金等を最大限活用していく必要があると考えております。

◆学校施設の改修を

(東村山第七中学校 Hさん)

市内の学校のクーラーやトイレなどの設備改善のため、東村山市としてお金を増やすためにしている対策はありますか？

◎ 市長回答 ◎

東村山の学校設備についてはまず集中的に耐震工事をやろうということで、耐震についてはこの間

進めて、昨年度で100%達成しました。これは万が一大きな地震があった場合、大勢の生徒さん、あるいは小学校だったら児童の皆さんが勉強したり生活されている場ですので、できるだけ早くやらなきゃいけないということでやったわけですが、実は市のお金だけではなく進まなくて、資金の内訳をいうと国や東京都からの補助金をまず確保するというところから始まって、あとは市の全体の予算の中で「このぐらいのお金だったら充てられる」というお金を出して、計画的に行っています。エアコンについても同じようなことで、あまりの暑さは命に関わるので、そういう状況がないようにということで進めています。

お金の話をすると、今どこの自治体も大変厳しい状況で、リーマンショック等があった以降、ずっと税収が伸び悩んでいる一方でやらなければならない仕事が増えていまして、その予算を確保するというのは大変なんですけれども、限られたお金の中で使い道を工夫していくということが大切だと思っています。そういう意味では明確に優先順位をつけて、充てていかなければならないところにはきちんとお金を充てていくというメリハリの効いた財政運営をすることが大事な点と。これは一般のご家庭や皆さんがお小遣いを使う時も同じことで、どうしても欲しい物があれば他の物を少し我慢してでも買ったりということがあると思います。市の場合は私が欲しくて買うわけではなくて、市民の皆さんの安全・安心が一番大切なので、他のものを後回しにしてもそこにお金を充てていくということを今やっているわけです。そういう意味ではこの間、若干クラブ活動のお金とかが後回しになっている傾向がないわけではないかなと思いますが、市役所としてはまずは安全・安心ということで耐震、それから普通教室のエアコン設置、そして今、各小中学校でやろうとしているのは外壁、場合によっては外壁も古くなるとコンクリート壁が剥がれて落ちてきたりするので、そういったことがないようにということと、学校によっては雨漏りする学校があるので、そこを改善しよう。それとトイレについても「臭いがきつい」とか皆さんからもいろいろ苦情が出ていますので、施設面ではその改善を最優先に考えてそこに集中的に資金を充てていくというふうにしています。全体の収入を増やすというのは、市役所がいくらがんばっても結局は税金で賄っているのだから、皆さんのお父さんお母さんの収入が増えないと、市役所だけの努力で収入を増やすというのはできないんですけれども、国や東京都の補助金等をできるだけ活用しながら一番必要なところにお金を回して、これからも施設の改善にできるだけ取り組んでいきたいと考えています。

◎ 庶務課より ◎

学校施設整備に関しては、国の学校施設環境改善交付金を活用し、クーラー等、東京都の補助金が該当する事業についてはそれも活用して、できるだけ市の財政負担を軽減し、且つ、安全面を優先に教育環境の整備に努めてまいります。

◆理科室に扇風機を

(東村山第六中学校 Tさん)

特別教室にクーラーが入っていないくて、理科室には扇風機もありません。クーラーまでいかななくてもいいので、扇風機の支給とかはできないのでしょうか？

◎ 市長回答 ◎

一昨年まで東村山市の方針としては学校にエアコンを設置するのはなかなか難しいということで、

普通教室には扇風機をつけるということをごの間、進めさせていただいてきました。理科室は実験等で火を使うために安全上の問題があって基本的には扇風機を使用しないということできているようですが、火を使わない時もあると思うので、もう少し工夫ができないか検討したいと思います。火を使って尚且つエアコンもないとなるとますます暑くなってしまふような感じがしないでもないので、わかりました。さっきも特別教室のエアコン設置ということについてお話があって、市としては特別教室については当面、東京都の補助金制度がないのでエアコンを設置するのは難しいということは申し上げたとおりですが、どうしても特別教室を夏場でも使用しないとその授業ができないという場合も想定されるので、手持ち式の扇風機が各学校に何台かあるはずですので、安全に支障のない限り、手で動かせる扇風機等で対応できないかどうか、工夫させていただきたいと思います。

◎ 庶務課より ◎

理科室については、一部で火を使う場面もあるということで、普通教室と同様に天井に扇風機を設置することについては安全上等の問題もあり困難であると認識しております。しかしながら、安全上問題のない状況を確認できた上で可動式扇風機を使用することについては可能であり、可動式扇風機を有効的に活用いただきたいと思いますと考えております。今後についても学校と協議のうえ、できるだけ児童・生徒の負担を軽減できるよう、柔軟に対応してまいりたいと考えております。

◆部活動の楽器を増やして欲しい

(東村山第六中学校 Kさん)

六中では部活動が活躍していて、今年は演劇部が全国大会に出場するなど、今、たくさんの部活ががんばっています。私が所属しているブラスバンド部は「長寿を祝う会」や小学校や全生園でのコンサートなど、地域でたくさん活動させてもらえるようになりました。そのおかげで今年は1年生がたくさん入り、全体で45人になって、毎日楽しく活動していますが、楽器が古くなってきて楽器が足りなくなってきています。楽器が欲しいので、市のほうで予算をたててもらえないでしょうか？

◎ 市長回答 ◎

中高生の皆さんとのタウンミーティングを初めてやった時は、四中のブラバンの子たちが大勢来て今Kさんがおっしゃったことと同じことをおっしゃっていただきまして、なんとかしなければいけないということで、がんばっていただいている中学校のクラブ活動に充てる予算枠を特別に通常の学校運営費とは別立てで組ませていただいています、そのうちいくつかの学校のクラブ活動であまりにも老朽化して使いものにならなくなった楽器だとか備品の購入に充ててもらっています。残念ながら全ての学校の全てのクラブの皆さんの要望にお応えするような状況にまだなっていませんが、少しずつでもなんとか対応できるようにがんばっていききたいと思います。楽器の場合は1個がかなりのお値段なので、急に全部を新しくするというわけにはいかないんですけども、今申し上げたような取り組みをしていますので、今回、教育委員会の教育長はじめ部長さんたちも来ていますから、そこはしっかり受け止めて来年度なんとかする方向で調整協議をしたいなど。他の学校の他のいろいろなクラブ活動の備品もあるので、どのように優先順位をつけていくかということをお我々も考えたいと思っています。

あと、六中の吹奏楽部の皆さんには最近、地域のいろんなところで活動いただいていることに本当

に感謝したいと思います。ありがとうございます。

◎ 学務課より ◎

部活動支援事業費につきましては、生徒自身が自らの夢や希望を持ち、夢中になって取り組むことのできる活動の機会を、すべての生徒に提供することが重要であると考えており、前年度の活動実績や学校の意向を把握し、より効果のある事業として執行してまいりたいと考えております。

◆吹奏楽部の復活を

(東村山第七中学校 Hさん)

合唱部に入っていますが、七中にはもともと吹奏楽部があって、「なんでつぶれたんですか？」って聞いたら「資金不足」と言われてしまいました。もう1回復活することは可能ですか？

◎ 市長回答 ◎

かつて七中に吹奏楽部があって、なくなってしまった理由を先生にお尋ねになったら「資金不足」と言われたということなんですが、ちょっとその経緯は私もよくわかりません。ただ、吹奏楽部の場合はある程度楽器を揃えなければならないという問題があります。1つの楽器でも数万円から十数万円し、高い楽器だともっとするのかもしれませんが、それらのある程度揃えるのにお金がかかるので、吹奏楽部の場合は運営がしづらい面があるのかもしれませんが。それから移動の際に全部手で運べればいいのですが、大きな楽器等もあって、その都度、専用の車等で楽器を運んだりするので、そういうことにお金がかかるというところがあります。今後、七中で吹奏楽部を復活するとなると、まずやる気のある生徒さんがどの程度いらっしゃるのかということと、楽器を揃えるとなると当初でどのぐらいの資金が必要になるのか。あと指導される先生方、学校全体の態勢がどの程度整うかによってできるかどうかということになります。今の段階で「絶対無理ですよ」ということも言えませんし、安易に「任せてください」という請け合いもできないんですけど、まずは吹奏楽部をもう1回復活させたいという皆さん同士と学校の校長先生や副校長先生、「指導してもいいよ」と言ってくれる音楽の先生たちとよく話し合いをしていただいて、ある程度見通しがたてば教育委員会なり私に「どうしても復活したいので、財政的なことを検討して欲しい」という話を持ってきていただくという筋道が、遠回りなようだけど一番現実的かなというふうに思います。

個々のクラブ活動については、我々が「こういうクラブをつくりなさい」とか「つくっちゃだめだ」とか言うことではなくて、基本的には各学校、特に生徒さんたちの主体性・自主性にある程度任せている部分があります。1校あたり、あるいは1クラブあたりに公金でお出しできる額というのはそんなに大きな額ではないので、あとは皆さん方あるいは保護者の皆さん含めてどこまで情熱を持ってやろうとされるか。それには公金だけでなく、寄付金を集められたり、いろんなやり方はあるんじゃないかなと思いますので、Hさんがどこまでの情熱と覚悟を持って臨まれるかによって我々も考えなきゃいけないのかなと思っています。

◎ 学務課より ◎

部活動の立ち上げについては、生徒の主体性・自主性を重視し、まずは、学校内で十分な協議を図り、行っていただく必要があります。その上で、予算を伴うものに関しての要望があれば、教育委員

会としても精査、検討をしてみたいと考えております。

◆中学校の通学区域について

(東村山第六中学校 Kさん)

秋津小学校の子は卒業して中学校に行く時に二中与六中に分かれるんですが、住んでいる場所で通う学校の区域が決まっています。どう考えても六中のほうが近いのに二中に通っている子が結構いて、そういう区域って変えられないのですか？

◎ 市長回答 ◎

校区と言われる区域の分け方については過去からの経過があって、あまり頻繁にいじるということは教育委員会のほうもされていないと思います。六中のほうが近いのに二中に行ってらっしゃるお子さんがいるということですが、たぶん何らかの理由があってそのエリア分けをされているので、そう簡単に校区を変えるということは、たぶん教育委員会のほうは想定していないんじゃないかなというふうに思います。ただ、一部の学校で生徒数が非常に増えてしまっている学校があって、二中与五中、それから四中と七中の間では選択できるエリアの通学区域ができています。ですので、二中に行くか五中に行くか、あるいは四中に行くか七中に行くか選べるところがあるんですね。去年まで二中に行っていた区域をいきなり来年から五中というわけにもなかなかいかないで、今のところは調整区域とかたちで選んでいただくというエリアがあります。秋津小学校のように二中与六中に分かれて行っているエリアでも、今後どうなるか分かりませんが、場合によっては生徒数の変動によって校区が一部変更になったり、調整区域が設けられたりということもあるかもしれませんが、今のところ私が聞いている話では現状そういう計画はないと思います。

東村山市は区域によっては児童生徒数が増えちゃって教室が足りなくなるのではないかと学校があたりしている状況で、今のところ極端な生徒数の減少というのはまだありませんが、長期的にみると日本は少子化で、どこの自治体でも子どもの数がだんだん少なくなってくる時代がきますので、その時にはまた校区の見直しとかということも必要になるのかなと。その前には35人学級の問題で、一部、小学校によっては教室が足りなくなる学校が出るのではないかとされていますので、通学区域・校区の変更で対応がきくのか、なんとも言えないところもありますから、教育委員会としてもそれらを勘案しながら、今後、それぞれの学校の区域については考えていかれるのだろうと思っています。

秋津小学校のお子さん、みんなできれば同じ中学に行きたいということなのかもしれませんが、そういう状況には今のところ無いということでご理解いただければと思っています。

◎ 学務課より ◎

東村山市教育委員会では、学校・家庭・地域の連携のもとに「地域の子どもは地域で育てる」を推進しており、各小学校・中学校が長い間地域社会と連携して培ってきた財産を大切に、今後も地域密着型で学校と家庭と、そして地域とが一層具体的な連携、協力体制を図り、山積する課題に向かって進むことが大切であるとの認識のもと、今後も学区域制を継続する考えでおります。

◆市制50周年について

(東村山第三中学校 Oさん)

市長さんは三中50周年記念の時に来校して挨拶されたと聞いています。東村山市は来年、市制50周年を迎えますが、記念行事としてどんなことを計画しているのですか？また、中学生が参加できるようなイベントは用意されていますか？

◎ 市長回答 ◎

ありがとうございます。三中が50周年だったのは一昨年だったと思います。私も三中出身なので、自分の母校で50周年の記念のご挨拶をさせていただいて、大変光栄に思っていますし、非常に感無量の思いで臨ませていただきました。本当にその節はお世話になってありがとうございます。

今、ご指摘あったように、来年は東村山市が町から市になってちょうど50年という節目の年になります。さらにもっと言うと、明治22年に久米川村・野口村・廻田村・南秋津村・大岱村という旧5ヶ村が合併して「東村山」という地名の村ができたんですが、それから数えると来年はちょうど東村山が誕生して125周年という年を迎えることになります。できるだけ市民の皆さんと一緒に祝い、今の東村山を作り上げてくださった先人の皆さんに感謝するとともに、次の50年間、市になってちょうど100年目の節目に向かって新たに一步を記せるような機会にしたいと思います。

50年後というと私は到底生きていないし、後ろのほうに座っている先生方のほとんどがたぶんいらっしやらないかと思います。今度の50年間の主役はまさに皆さん方の世代ということになるわけで、東村山を離れちゃう人たちもいるかもしれませんが、高校生、中学生、小学生あるいはもっと下の子どもたちにも「市がこういう節目の年を迎えるんだよ」ということを知って欲しいなという思いがあって、まず市のご当地キャラクターを作ろうということで今年取り組みをさせていただきました。デザインについては市内の小中学校を中心に全国から1650点の応募をいただいたんですね。小学校から1261点、中学校から118点、小中学生合計で1379点の応募をいただきました。一般の方が271点ということでこの中には高校生も含まれますけれども、今回、東村山のキャラクターを多くの子どもたちが考えてくれたということで、大変よかったなと思います。それを市役所の中で7点に絞らせていただいて、「ご当地キャラクター選手権」ということで通常の選挙であれば二十歳以上の人しか投票権ないのですが、今回は年齢制限なく、市内在住でない方でも東村山市に関心がある方については投票していただくということでやりまして、「ひがっしー」というキャラクターが決定しました。来月には立体として誕生する予定になっていまして、今後、市のいろいろな行事や、もしかすると皆さんの学校にもお邪魔して50周年のPRをさせていただくこともあるのではと思っています。今回選ばれた「ひがっしー」は大人の方が考えたんですけど、2番手で2714票入った「東村山千隊JIZOU(じーぞう)～国宝～」というキャラクターは小学生が考えたキャラクターで、残念ながら1位にはならなかったんですけど、子どもたちが考えたキャラクターでも上位に入っているということで、これからますますがんばってもらえると東村山にも明るい希望の光が見えるかなと思います。

現在、市のほうでは50周年記念のいろいろな行事についてはまだ検討している段階ですが、1つは来年10月26日にスポーツセンターで式典をやるということが決定しています。できれば東村山

駅の東口からスポーツセンターまで伸びている前の通り、通称「さくら通り」を活用してその日は市民の皆さんと何かイベントをして盛り上げようということで、みんなで1本のうどんを打ったらどうかとか、ギネスブックに出られるかもしれないとか、アイデアとしてはいろいろ出ています。まだアイデア段階なので具体的には決まっていません。その他、市が主催する行事以外にも市民の皆さんから事業を募集して行うといった市民公募の50周年事業も検討中です。実は40周年の時には、「こども議会」というのをやっているんです。今回やるかどうかは決めていませんが、議場をお借りして皆さんぐらいの方に来てもらって、子ども議員として出席してもらって、今、皆さんからいろいろ提案いただいているようなことを議場でやるというようなことも今後、検討できないかなと思っています。次の50年を具体的に歩んでこの町を盛り上げ支えてくださるのはまさに皆さん方ですから、そういう人たちに少しでも東村山市のことについて関心を持っていただき、且つ「この町で生まれ育ってよかったな」と思えるように皆さんが少しでも主役になれるような機会を作っていきたいと思っていますので、もし「こんなイベントやこんな取り組みをしたらどうか」という具体的なアイデアがあれば、提案してもらえるとありがたいなと思っています。

◎ 企画政策課より ◎

市制施行50周年記念の具体的な事業についてはこれからになります。各課で例年行っているイベントをスケールアップすることや、新規の事業・イベント開催などを検討しています。大人から子どもまで参加いただけるようなものができればと考えています。

◆市の公式キャラクター「ひがっしー」について (東村山第三中学校 Kさん)

ご当地キャラクターの「ひがっしー」について、市長はどのような印象をお持ちですか？

◎ 市長回答 ◎

「ひがっしー」はお書きになった方の触れ込みですと東村山市のシンボルツリーであるけやきの木の妖精ということで、妖精としては全体的にぽっちゃり体型かなーと思って、羽が生えているのですが本当に飛べるのかしらというような印象です。17887票の投票をいただいて、「ひがっしー」はそのうち5085票も集めています。小学生とか幼稚園・保育園の子どもたちには圧倒的な人気で、子どもたちには非常に受けが良かったのかなと思っています。これは50周年を記念して作ったご当地キャラクターですので、これから次の50年を担う皆さん含めた子どもたちに市に少しでも関心や愛着を持ってもらいたいということがありますので、そういう意味で子どもたちに親しまれるようなキャラクターが選ばれたというのはすごく良かったなと考えています。「くまモン」ほど全国メジャーにはなれないかもしれないけれども、売り出すにあたって「ひがっしー」のストーリーを考えて、妖精なんだけどどういうお父さんお母さんの間から生まれてどういうふうに育ってきたとか、どういう生活をしているとか、少し物語を考えながらこれから「ひがっしー」の売り出しを考えたいなと思っています。今は国体のキャラクター「ゆりーと」の「ゆりーとダンス」とかありますから、市役所の若手の職員も「ひがっしー」をこれからどういうふうに活用しようかということで、「ひがっしー」も何かテーマミュージックを作ってそれに合わせて踊れるような振りも考えて「ひがっしーダンス」ということも考えようとか、今、計画していますが、こういうぽっちゃりした体型なのでどうい

踊りができるかわからないかなーと。皆さんのほうから『ひがっしー』にこんなことをさせたらどうか」とか「こんなことをしてもらいたい」とかアイデアがあればお寄せいただいて、これから未永く市民の皆さんに親しまれて愛される東村山のシンボルキャラクターに成長できればいいなと考えています。ぜひ皆さんで大きく育てて、「くまモン」とか「ひこにゃん」に負けないように育てて欲しいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

◎ 企画政策課より ◎

多くの園児・児童・生徒のみなさんに選んでいただいた「ひがっしー」が、ご希望いただいた園・学校へお礼に伺います。(10月を予定)

また、これから色々なイベント会場にお伺いする予定ですが、お声かけいただければ学校行事にも参加したいと考えております。応援よろしくお願ひいたします。

◆なぜ市長になったのか

(東村山第三中学校 Yさん)

市長さんはどうやって市長になることができたのですか？また、いつから市長になりたいと思ったのですか？

◎ 市長回答 ◎

どうして市長になれたかと言われてもちょっと難しい質問で、どういうふうにお答えしたらいいのかなと思っているのですが、私は平成19年、2007年の市長選挙で初めて立候補して、おかげ様で皆さんのお父さんやお母さん、多くの市民の皆さんのご支持をいただいて初当選させていただきました。その後、東日本大震災があった2011年の4月にまた選挙がありまして、おかげ様で二期目も当選させていただいたところであります。市長というのは最終的には選挙で選ばれないとなれない、どんなになりたくても選挙を戦って多くの市民の皆さんのご支持をいただかないとなれない仕事です。

私は市長になる前は市議会議員を4期、16年務めさせていただいてきました。議員というのは条例を制定あるいは改正する、いわゆる立法に携わる仕事で、市長というのは市議会で決定された条例あるいは予算に基づいてそれを執行するわけです。そうですね、どうして市長になれたかと言われると市議会議員としてそれなりに研鑽を積んだり、大した実績ではありませんが実績を残したりして、同僚の議員の皆さんとか市民の皆さんに信頼されるようになって、市長選に出たら当選できたということで、どうして市長になれたのかと言われると、自分でもはっきり言ってよくわかりません。その時与えられた仕事を一生懸命やっていくということと、「いつかは市長をやりたいな」という想いがあったので、さっき皆さんに申し上げたように自分の夢や目標を持ってしっかり毎日がんばって、多くの人の信頼を得ていくということが結果として市長になれたのかなと思っています。

いつから市長になりたいと思ったか、というのは私自身はあまり覚えていないんですが、中学の友達にある時「お前は中学の時に市長になるとか言ってたよな」と言われて「え、そんなこと言ってたっけ？」ということがあって、自分はすっかり忘れていたんですが友達が覚えててそんなことを言っていた時期があったようです。ただ自分はあまり意識してなくて、政治の道に入ったのは早いといえは早いんですが、私は学生の頃から政治家を目指して勉強していたという人間ではなくて、30歳前後にお勧めいただいて「こういう世界もあるのかな」ということで政治の世界に足を踏み入れたとい

うことです。立法府である議会と執行者である市長というのは自ずから立場が違うところがあって、議員は議員としての大きな責任と役割、そしてやりがいもあるんですけども、条例を作るという仕事だけでなく、実際に執行するというのを一度はやってみたいという想いは市議会議員になってしばらくしてからだんだん芽生えてきたと思っています。いつぐらいからというのは具体的にはないんですけど、市議会議員として仕事をしている中で「いずれ自分で決めたルールに基づいて、あるいは決めた予算等を実際に自分で執行する側に回ってみたい」そんなことをたぶん議員になって10年ぐらいしてから考えるようになったんじゃないかなと思います。

～みんなでつくる安全・安心とうるおいを実感できるまち～ について

◆通学路に街灯を増やして

(東村山第六中学校 Tさん)

部活の帰り、通学路が暗くて怖い道があるので、街灯を増やすことはできませんか？

◎ 市長回答 ◎

部活で遅くなったりした時に、ご自宅まで帰る通学路で街路灯がなくて暗くて怖いところがあるということなのかな？そのことはお父さんやお母さん、あるいは学校の先生にご相談されたことは？

ありません。

(東村山第六中学校 Tさん)

◎ 市長回答 ◎

軒並み全部つけますというわけにはいかないんですけど、具体的に「この場所」とかってこと言ってもらって、「ちょっと危険かな」と思われるところについていえば、それが市道と言われる市の道路で市のほうで設置が可能であれば通学路の安全を考えるとできるだけ設置していきたいというふうに考えております。お金のかかる話なのであっちにもこっちにもというわけにはいかないんですけど、具体的に言っていただくのが大事なかなと思いますので、1回お父さんやお母さんと相談してもらって学校のほうに言ってもらう、あるいは市役所のほうに言ってもらうといいかなというふうに思います。もし、それが市の道路でないと難しいんですね。ただ、基本的には市道が通学路指定になっていると思いますが、中には東京都の道路であったり、私道と言われる個人の方が所有する道路になってたりすると、個人または自治会などで設置するため、ちょっとお時間をいただかないと設置できない場合もあつたりしますので、そこはご理解いただきたいと思います。あとは危ないと思われるところは遠回りになってもぜひ避けて安全な通りを通ってもらうとか、中学生ぐらいの皆さんは自分自身で自分の身を守るということも少し考えていただいたほうがいいのかというような気もするので、そういうことも少し頭に入れていただきたいと思います。できるだけ危ない環境を減らすのは我々の務めだとは思いますが、特に女性の場合は大人になっても自分で自分の身を守らなければいけないので、そういうことに徐々に気をつけながら歩くところも考えていただく必要があるかなと思います。

◎ 学務課より ◎

意見をいただきました学区や地域を学校に確認し、道路所管に問い合わせいたしましたが、市道で極端に照度の足りない場所は確認できず、街灯の増設が必要な箇所もありませんでした。

また、具体的な場所等で意見がございましたら、学校あるいは、市役所に意見をいただき、照度や街灯の設置位置などを確認した上、設置についての検討をしてみたいと考えております。

◆緑地の保全について

(東村山第七中学校 Iさん)

今、東村山では畑が多くつぶされ、家が建っています。東村山のいいところは緑が多いところだと思うのに、そのことに対して真逆のことをやっていると思うんですが、市長さんはどうお考えですか？

◎ 市長回答 ◎

私もIさんと同じだし、多くの市民の皆さんが東村山らしさと感じているところは、東村山は比較的都心に近くて便利がいいところでありながら緑地や畑が結構残っている、身近なところに緑が多いところが東村山の良さであるというふうに感じています。市の将来都市像は「人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山」ということで、市民同士あと市民と自然が調和して皆さんが笑顔になれるようなまちをつくっていかうというのが市の将来都市像になっていて、「緑」というのは重要なキーワードになっています。ただ残念ながら、ご指摘のように年々、畑や樹林地がつぶされて住宅になってしまっているのも事実で、我々としても大変胸を痛めているところであります。ただ、畑や樹林地は基本的には民有地ですから、持っている地権者の方が何かの都合で手放される、特に多いのは相続が発生した時に畑を売って相続税を払ったりされるケースがすごく多いんですね。そういったことで農地や樹林地を手放されて、そこが宅地開発されてしまうということがあります。ですので、市にもものすごくお金があれば、売りに出された畑や緑地を市で購入して公有地化できれば緑は保全されるわけですが、市にもそんなに潤沢にお金があるわけではなくて、クラブ活動のお金も皆さんにご満足いただけるような状況になっていないという中で、畑や緑地という土地を買うとなると非常に大きなお金がかかってしまうので、全てを公有地化するわけにはいかないのが実情です。

ただ、市としても手をこまねいているわけにはいかないもので、ポイントを絞って「ここの緑地は残そう」という地域については地権者の方のご理解をいただいて少しずつ公有地化しているエリアがあります。1つは北山公園の土地です。北山公園は今、菖蒲園になっていますが、全てが公有地化されているわけではなくて、まだ一部、民有地になったままなので、計画的に購入させていただいて将来に亘って残していきたいと考えています。

それともう1つは回田小学校の北側の谷状になっている多摩湖緑地というところが、かつての谷戸の里山の風景がまだ残っているところなので、ここも地権者の方とお話し合いをさせていただいて市のほうで計画的に土地を買わせていただいて、かつての里山の風景を残していこうという取り組みをしています。他にもいくつか本当は公有地化したい緑地があるんですが、先ほど申し上げたような状況で全てのところにはなかなか手が回ってませんけれども、この2つは市が土地を買うというかたちで将来に亘って残していこうとしています。

それと、できるだけ東村山の緑地の大半を占めている畑・農地をなんとか継続していただくように、

農業振興を少しでも後押ししていこうということで、市としても取り組みをしています。身近なところに農地があるというのは、万が一の場合、例えば大きな地震とかがあって避難するようなところがなくなっても、近所に大きな畑があればそこに逃げ込めるといった防災上のこともあるし、環境面でも家が密集するよりは少しオープンスペースの緑地帯である畑があるとヒートアイランド現象みたいなのを少しでも防げることになります。それからそこで栽培されて生産された野菜は新鮮で安全な野菜で、今できるだけ学校給食にも使ってもらえるように取り組みをしていて、少しでも地産地消ということで食育にも役立つということで、都市における農地の役割というのは非常に多面的な機能があるので、市としても公有地化はなかなかできないけど支援していくということで、できるだけ地権者の方にそのまま持っていて農業を継続していただけるような取り組みをやっていきます。国に対しては相続面の問題があるので、都市農業が継続できるような税制面での改革をして欲しいという要望をしたり、東村山の農業者の方で意欲を持ってがんばっていこうとされている方についてはいくつかの補助金制度を設けて、ハウスを建てたりする時には市から少し支援したりしていますし、できるだけ市民の皆さんにも東村山農業のいいところを知ってもらって、市内の農産物をご購入いただいて東村山の農業が存続できるようにしていきたいということで進めています。

緑や農地を残すというのはなかなか厳しいことですが、我々としてもいろいろな取り組みを続けながら農地や緑地の減少に少しでも歯止めをかけて、東村山らしい風景を引き続き残していきたいと考えていますので、中学生の皆さんにもそういったところに関心を持ってもらって、東村山の野菜とか果物をいっぱい召し上がっていただくと東村山の農業者の皆さんも元気が出てくると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

◆市の防災に対する取り組みについて

(東村山第三中学校 Fさん)

2年ぐらい前に東日本大震災があって、学校で避難訓練がありますが、東村山市では防災についてどのような対策がありますか？

◎ 市長回答 ◎

2年前の東日本大震災では大勢の方が亡くなられています。特に子どもたちも津波に巻き込まれて、大勢の方が亡くなられて本当に心が痛むところです。市としては阪神淡路大震災、それから東日本大震災を受けて、市民の命を最優先にした市政運営をしようということで進めてきたところがございます。学校の耐震化については昨年で終わることができたのですが、阪神淡路大震災以降、段階的に進めてきたのですがなかなか前に進まないということで、ちょうど中国で四川大地震というのがありまして、中国の場合は学校が鉄筋ではなくて中に竹が入っていたりと非常に弱い造りで、多くの学校が倒壊して授業中のお子さんが大勢亡くなられたんですね。それを踏まえて日本政府が日本では大きな地震が今後想定されるので、今まで何分の1か出すのを少し多めに補助金を出すので早く学校の耐震化をやりなさいということで、補助金の嵩上げがありました。そのことを踏まえてここ4年ぐらいの間に学校については集中的に耐震化を進めさせていただいて、昨年終了したという状況です。

現在、市の公共施設でも旧耐震基準で建てられている建物も結構あります。それから市内に105の橋がありまして、今、それらの劣化度調査をして、公共施設については計画的に耐震補強あるいは整備を進めていきたいと考えています。

それと市民の皆さんの建物関係でいうと、木造の建物については耐震診断をやる場合には市の独自の補助金制度を作って、補強する場合にも1軒あたり30万円という上限は決まっていますが、補助金を出して、それぞれのお宅の耐震診断・耐震補強の後押しをさせていただいています。ただ、補助金制度は設けましたけれども、現実問題なかなか進んでいないのが実情です。というのは、耐震をやるとなるとかなりお金がかかるということがあったり、「いつくるかわからないので」ということで前に進んでいないのが気になることです。あとこれは市の制度ではないですが、東京都では府中街道や新青梅街道のような幹線道路沿いの旧耐震基準で建てられているマンション等に補助金を出して、こちらについても今、積極的に耐震補強されるような取り組みをされています。建物関係でいうとこういったことをやっています。

あともう一つ今、市のほうで取り組んでいるのは、市民の皆さんへの災害時の情報伝達ということが非常に重要なので、2年前の東日本大震災のあとの計画停電の時に防災行政無線をかなり使わせていただいたんですけど、これが聞こえないという苦情がよく市のほうに寄せられまして、今このデジタル化を進めていて、災害時に市民の皆さん等に情報伝達できるように進めています。各学校にも小局が設けられていまして、デジタル化することによって無線で市役所とつながるようなかたちになります。日頃、皆さんが生活されている場所である学校は万が一の場合は避難所になりますので、情報伝達ルートが確保されるようになってきている状況です。それがいわゆるハード面での整備です。

災害の場合、もう一つ重要なのがソフト面ということになります。これは行政だけで全てできるわけではないので、市民の皆さんのご協力をいただくべく、今年度、避難所となる学校を中心に市民の皆さんと避難所の立ち上げの訓練を実施していこうと考えています。

それともう一つは、平時から高齢者や障害のある方を見守りするネットワークづくりを昨年度から進めていまして、今後、こうしたハード・ソフト両面に亘って整備することによって少しでも災害を減らしていく減災、防災のまちづくりというのをこれからも進めていきたいと考えています。

学校での避難訓練は遊び半分で行っているわけでは決してないと思いますが、ぜひ真剣にやっただけが大事かなというふうに思っています。東村山の場合は津波がくるということはありませんけれども、都市部の場合、気になるのは地震のあとの火災が懸念されるので、そういったことも考えて、普段からご家族で大きな災害があった場合にどんなところに逃げるか、どういうふうに家族が連絡を取り合うかというようなことも話し合ってもらい必要があるし、市のほうでも災害時に向けた様々な防災備蓄品を備蓄していますが、恐らくこれだけでは食料等が足りなくなる可能性もあるので、ぜひ皆さんの各ご家庭でも災害時の食べるものとか必要なものを備蓄していただけるとありがたいなと思っています。

◎ 防災安全課より ◎

災害時情報伝達手段の強化として、防災行政無線のデジタル化を行っており、無線放送の聴きやすさの向上と、相互通信機能による市役所災害対策本部と避難所になる学校間で、停電時でも連絡が取れるよう準備をしています。また、市でも学校を会場に、「総合震災訓練」を毎年開催しており、消防や警察等関係機関の他、開催地域の皆様に参加をお願いし、地域の防災意識向上を図っております。

◆東村山市のごみ処理に対する取り組みについて (日体桜華高等学校 Mさん)

東村山市は「ごみ排出量」と「リサイクル率」で全国10位になったということですが、今後、市としてどのように取り組みを続けていく予定ですか？

◎ 市長回答 ◎

ありがとうございます。うちの市がごみの排出量とかリサイクル率が全国10位ってというのはどこでお知りになりました？

市報で。

(日体桜華高等学校 Mさん)

◎ 市長回答 ◎

ありがとうございます。東村山市は人口10万人から50万人の市で1日に排出される市民一人あたりのごみ排出量が約750グラム程度で、少ない方から全国で10位ということになりました。それからリサイクル率が33%程度ということで、こちら10位ということでございます。これは日々ごみを排出される市民の皆さんが「地球環境にあまり負荷をかけないようにしよう」ということで、できるだけごみを出さない取り組み、あるいは「リサイクルできるものはリサイクルしよう」というご協力をいただいていた賜物だというふうに思っています。ごみ減量とリサイクルというのは、市民の皆さん、あるいは市内でご商売されていらっしゃる事業者の皆さんのご協力なくして達成できないということで、今後も引き続き市民の皆さんや市内事業者の皆さんにごみ減量・リサイクルへのご協力を呼びかけていきたいなと思っています。その中で1つ考えられるのが、可燃ごみのうち重さでいうと生ごみがたしか半分ぐらいを占めているのですが、生ごみの場合は野菜くずとかがあるのかなりの部分が実は水分なんです。あと、三角コーナーとかに入れてごみ袋に入れて出すと思うのですが、水切りを少しやっってもらっただけで重量的には随分減ってきますので、毎日ごみを出す際に少し絞って水切りをしてもらっただけでもかなり違ってきます。ぜひMさんご自身もそういうふうにご心がけて欲しいと思いますし、ご家族の方や他の方にも広めていただいて、ごみの排出量というか重量を減らすようにしていただければなと思います。

それと今、市が進めているのが、行政回収といって市が委託している事業者さんに回収していただくのではなくて、売っているお店で例えばトレー等を回収して下さっているお店がありますが、そういう店頭回収していただけるお店を増やそうということでご協力をお願いしています。行政が回収する量が減れば排出量として換算されるものが少なくなってきますので、そういう取り組みをしていますが、お店の事業方針や経営状況によって協力いただけるところもあればなかなか難しいところもありますけれども、東村山全体で何とかごみ減量やリサイクルを進めていこうという機運をつくって、そういうことに積極的なお店のほうがお客さんが増えるというような状況になればお店の人たちも進んで協力いただけるんじゃないかなと考えています。

それと集団資源回収の量と集める物を少しずつですけど増やしていきたいと考えています。学校によってはPTA等で集団資源回収をやって下さっている学校があって、PTAさんの資金を調達するという意味合いでやっているところがあるのですが、これも行政で回収したところから外れますので、できるだけ多くの皆さんにご協力いただいてそういう機会を増やして、1位にはなれなくても少しずつ順位が上げられるようにこれからもごみ減量・リサイクルについては努力していきたいなと考えていますので、ぜひお願いしたいと思います。

皆さん、東村山市のごみの出し方、わかっていますよね？うちの子どもは未だに分別の仕方がよく分かっていないので、ちょっと再教育しなきゃいかんかなと思っているのですが、改めてごみ減量とか分別だとやってやると結構大変ではあるんですが、どこの自治体に住むようになってもある程度は分別しなきゃいけないし、ごみ減量やリサイクルというのはどこの自治体にお住まいになってもやらなきゃいけないことなので、ぜひ中学生の皆さんも進んでごみ出しを手伝って分別の仕方とかを覚えて、子どものうちから習慣づけて身につけていただくとこれから一生の役に立つんじゃないかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

◎ ごみ減量推進課より ◎

当市の一人1日あたりのごみ排出量が少ない方から全国で10位。リサイクル率についても10位についてですが、環境省で調査している全国の一般廃棄物の排出及び処理状況等についての平成23年度実績で、人口10万人以上50万人未満の都市の部においての結果となっております。

次に、生ごみの水切りについてですが、一般的に家庭から出される燃えるごみの半分位が生ごみといわれています。ちなみに、秋水園に搬入された燃やせるごみの平成23年度実績の組成分析では、搬入された状態の重量は全体の22.3%となっております。従前から比べると減少しており、市民の皆様にご協力いただけていることが1つの要因と考えられます。

最後に、店頭回収についてですが、市民だけでなく事業者の方々にもごみの減量とリサイクルについて身近に考えていただき、ご協力いただくことで循環型社会形成への取組として進めております。

【市長まとめ】

皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございます。

いつも思うのですが、中高生とのタウンミーティングというのはどういうご質問あるいはご意見が出るか、やはり大人とはちょっと違う観点のご質問やご意見いただくので、私としては非常に緊張して臨んでいます。未来ある皆さんの前であまり夢も希望もなくなるような話もできないので、「お金がない」とか平気で言うてはいるのですが、大変心苦しく思いながら言っている部分もあるということをご理解いただけるとありがたいなというふうに思います。

やはり、中学生や高校生の皆さんがこの東村山というところで育ち、あるいは学んだということが、今後、振り返って見た時に皆さんのある種の宝になったり、力になれるようにしたいというのが私の基本的な考え方です。公立小中学校の教育環境については、乏しい中ですができるだけ整えていきたい。特に命に関わるような部分については改善するというでこの間取り組んできました。ただ、まだまだ足りない部分もあるので、今後それらは全体の財政状況を勘案しながらどういうふうに進めていくか、もう少し知恵を絞りたいなと思います。

あと、先ほど申し上げましたように皆さんにはこの東村山で学んでいるということを誇りに思っただけからぜひ前向きにがんばって生きていって欲しいなと願っています。

今年から来年にかけてはいろいろな行事が東村山でも行われるので、せっかくの機会ですからチャンスがあればどんどん参加していただいて、一緒にこの東村山というまちを盛り上げていただければありがたいなと思います。

今日は長時間に亘ってお付き合いいただきまして、ありがとうございます。夏休み、いい思い出をたくさんつくってください。どうもありがとうございました。

市民と市長の対話集会
第69回
タウンミーティング記録集

発行 平成25年10月
東村山市役所市民部市民協働課
東京都東村山市本町1丁目2番地3
TEL 042(393)5111
(内線2563、2564)